



— 目次 — Contents

- 2 特集：高梁市の子育て支援
- 10 デスティネーションキャンペーン始まる
- 12 市職員の給与などの状況を公表します
- 14 行政情報 / 医学生奨学金、看護師・介護福祉士 養成奨学金 ほか
- 21 在宅医療連携拠点事業通信
・地域おこし協力隊がゆく
- 22 暮らしの情報 / 子育て支援情報
- 24 暮らしの情報 / 生活支援情報
- 26 情報プラス・イベント情報
- 28 検診情報・ヘルシーレシピ
- 29 高梁偉人列伝
- 30 成羽病院通信・学園だより
- 31 図書館だより
- 32 市民のページ
- 34 高梁の高校に行こう！
・キラキラきらめく
- 35 まちの出来事
備中たかはし町家通りの雛まつり
- 36 備中高梁ウルトラ&吹屋～宇治ふれあい
マラニック・ちょっとひとこと

— 表紙 — Cover

2月5日午前の子育て支援センター「ゆう・ゆうひろば」は、1歳以下の子どもが集まる「赤ちゃんタイム」。人見知り、泣き虫、旺盛な好奇心、満開の笑顔…。子どもたちが、思い思いに遊んでいました。

— 人口 — Population

	人口・世帯数 (人・世帯)	前月比 (人・世帯)
総人口	32,246	-69
男性	15,438	-34
女性	16,808	-35
世帯数	14,661	-25

(平成28年2月末現在・外国人含む)

特集：高梁市の子育て支援

高梁では子どもを産めない？

そんなことはありません。

妊娠・出産・産後の不安を

「たかはし版ネウボラ」がサポートします。



日 本の総人口は、平成21年から減少し、少子化が進んでいます。

年間の出生数は、第1次ベビーブーム期(昭和22～24年)には約270万人、第2次ベビーブーム期(昭和46～49年)には約200万人でしたが、昭和59年に150万人を割り込み、平成3年以降は緩やかな減少傾向となり、平成25年の出生数は、102万9816人となっています。

子育ては不安がいっぱい

高梁市も例外でなく、平成18年度には258人生まれていましたが、平成27年の出生数は160人となっています。

子どもを産み、育てるには「核家族でのお産は不安」「子育ての負担が心配」「経済的に苦しい」など、たくさんの不安があります。

市では、このような子育てへの不安に対応するため、手厚いサポートを行っています。



「ネウボラ」とは、フィンランドの子育て支援制度で、「アドバイスの場所」という意味です。

妊娠期から就学前まで、切れない支援を提供し、子どもの健全な成長・発達と共に、母親、父親、きょうだい、家族全体の心身の健康を支援することも目的としています。

フィンランドでは、妊娠が分かっただけで、ネウボラへ健診に行きます。その時点から子どもが小学校に入るまで、特別な教育を受けた一人の担当者が継続的にサポートしてくれます。ネウボラによる長期的な家族支援で、出生率が伸び、児童虐待が減少しているそうです。

「たかはし版ネウボラ」とは？

高梁市も同じように、妊娠期から就学前まで、担当保健師と市のさまざまな制度による支援を用意しています。これら「たかはし版ネウボラ」について、体験談と共にご紹介します。